

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点

指導内容や指導方法において特徴ある工夫が行われている実践事例

1. 基本情報

都道府県名及び市町村名

広島県山県郡北広島町

学校名

北広島町立八重東小学校

学校のURL

<http://www.khiro.jp/yaehigashi-es/>

2. 学校紹介

学級数

【通常の学級】全学年各1学級, 【特別支援学級】1学級, 【合計】7学級

児童生徒数

【全児童】117名(平成23年12月9日現在)
(内訳: 第1学年19名, 第2学年14名, 第3学年23名, 第4学年15名, 第5学年22名, 第6学年24名)

学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】<平成22年度>

「確かな夢と志を持ち、心豊かに『たくましく』生きぬく八重東っ子の育成」

【人権教育に関する目標】

「豊かな人間関係を育み、自他のよさを認め、ともに高まり合う児童の育成」
～コミュニケーションを「ともに学ぶ喜び」につなげる学習活動の創造をめざして～
〔めざす子ども像〕

言語活動を通して、互いの考えの違いやよさを認め合い、ともに高まり合おうとする子ども
規範意識を持ち、集団の中で他者を尊重しようとする道徳的実践力を持つ子ども
体験を通して、相手の立場を共感的に理解し、互いに尊重し合い、協力し合うことの大切さ
を感じる子ども

人権教育にかかる取組の全体概要

言語活動を通して、互いの考えの違いやよさを認め合い、ともに高まり合おうとする子どもの育成

人間関係づくりに生かされる言語技術を身につけさせる授業づくりを行う。

(意見交流型・意見焦点型・創造型・アドバイス型・討論型)

規範意識を持ち、集団の中で他者を尊重しようとする道徳的実践力を持つ子どもの育成

全校が同時期に同じテーマで取り組む道徳学習プログラムを実施する。

生徒指導・児童会活動と各学級の取組との連携の重視を図る。

シンプトム評価^{*1}を利用した児童の変容の形成的評価を行う。

1 シンプトム評価...望ましい方向に情意が高まった場合に現れるであろうシンプトム(兆候, 兆し)を到達目標群として予め複数設定し、それに基づいて内面的な高まりを外面から評価する方法

交流・体験活動を通して、相手の立場を共感的に理解し、互いに尊重し協力し合うことのできる子どもの育成

ソーシャルスキルを育てるSSタイムの系統的な実施を行う。

体験活動を人権教育の視点を持って振り返ることで、体験の経験化を図る。

学級集団の傾向を把握するためのアンケート等により児童実態（変容の様子）の把握を行う。

3. 特色ある実践事例の内容

人間関係を育む「ともに学ぶ喜び」を共感できる授業づくりをめざした取組

（取組のねらい、目的）

児童が、他の児童と一緒に学習活動をする際には、必ず児童間でコミュニケーションをとっている。コミュニケーションを通して、自らの考えの正否を確かめたり、よりよい考えについて吟味したりしている。コミュニケーションをよりよくとることができるように授業を工夫することで、自分や友だちの学習の深まりを実感させ、児童が友だちと一緒に学習することの意義や「ともに学ぶ喜び」を感じさせ、自他を尊重する心情と態度、よりよい児童間の人間関係を育む。

（取組を始めたきっかけ）

友だちの心に寄り添い、友だちの立場に立って、物事を理解しようとする共感的理解や、自他のよさに気付いて、よさを生かして互いに高まっていこうとする心情・態度が弱いという児童実態を踏まえ、学校生活の大半の時間を占める授業時間において、その改善を図っていかなければ効果的な実態の変容はないと考え、授業改善についての研究実践を始めた。

（取組の内容）

学習活動で行われるコミュニケーションを、目的や方法から次の5種類に分類し、「コミュニケーションの八重東型モデル」をつくり、国語科・道徳の時間・総合的な学習の時間の指導を中心に、授業者が指導のねらいに応じてモデルを活用して授業を行った。授業づくりに際しては、「事前に持たせたい視点」「特に意識させたい話し方や言葉」「事後に振り返らせたい視点」を明確にして取り組んだ。

【コミュニケーションの八重東型モデル】

（1）意見交流型

意見を交流して広げていく場面でのコミュニケーション

事前に持たせたい視点

友だちの意見を交流して自分の考えにないものを見つけよう。

・友だちの考えと比べながら聞こう。・友だちの考えをしっかりと受け止めよう。

特に意識させたい話し方や言葉

「Aさんと似ていて...」 「Aさんの意見は、私は考えつきませんでした...」

「Aさんと少し違うのですが...」 「Aさんの意見は参考になりました...」

事後に振り返らせたい視点

自分がしっかりと聞いていることを相手に伝えることができたか。

自分の意見は誰の意見に近いと思ったか。

誰の意見が一番心に残ったか。

友だちの意見を、顔を見ながらしっかりと聞いていたか。

分かりやすく説明しようとしてくれたのは誰か。

自分の意見を一生懸命聞いてくれたのは誰か。



(2) 意見焦点型

考えを練り合う場面でのコミュニケーション

事前に持たせたい視点

友だちの意見のいいところを見つけよう。

・友だちの間違いも自分たちの学びにしよう。 ・友だちと意見が違ふところを考えよう。

特に意識させたい話し方や言葉

「Aさんの意見に付け加えます...。」 「Aさんの意見をもとにして考えると...。」

「Aさんの意見について違う言い方をすると...。」 「Aさんの意見はよく分かりますが...。」

「Aさんの意見をもっと知りたいので...。」

事後にふり返らせたい視点

いい考えを探そうと考えながら話し合うことができたか。

どの意見でしっかりと考えることができたか。

みんなで話し合っ、考えを深めることができたか。

自分の意見についてよく考えてくれたのは誰か。

分かりやすく説明しようとしてくれたのは誰か。

自分の意見を一生懸命聞いてくれたのは誰か。



(3) 創造型

アイデアを出し合っ、協決して何かを創り出していく場面でのコミュニケーション

事前に持たせたい視点

みんなで一つのものを創っ、いこう(どうしたら、よりよくなるだろう)。

・友だちの意見のいいところを集めていこう。 ・違った見方を大切にしよう。

特に意識させたい話し方や言葉

「AさんとB君の意見を合わせてみたら...。」 「Aさんの意見につけくわえて...。」

「Aさんの意見を参考に考えたのですが...。」 「Aさんの意見を詳しく知りたいです...。」

「Aさんの意見のいいところを言います...。だけど...。」

事後にふり返らせたい視点

協力しながらよりよいものを創るために話し合えたか。

友だちの意見を聞きながら意見を組み合わせることができたか。

誰の意見が参考になったか。 みんなで話し合えるような考えを言ったのは誰か。

自分の意見に対して、意見を述べてくれたのは誰か。

分かりやすく説明しようとしてくれたのは誰か。

自分の意見を一生懸命聞いてくれたのは誰か。

(4) アドバイス型

友だちの活動について客観的にアドバイスをする活動でのコミュニケーション

事前に持たせたい視点

友だちの活動をよりよくするための方法について考えよう。

・友だちのいいところをみつけよう。 ・参考になるところを見つけよう。

特に意識させたい話し方や言葉

「Aさんは~をよくがんばっていましたね...。」

「Aさんの考えのいいところは...。」

「Aさんの考えをよりよくするために、もっと考えたらいいことは...。」

「Aさんの 自分をまねて活かしてみたいと思いました...。」

事後にふり返らせたい視点

友だちの考えを聞いて自分の考えを見直せたか。

友だちの考えのよいところを見つけながらアドバイスができたか。

意見をしっかりと聞いてくれたのは誰か。 アドバイスをしてくれたのは誰か。

もう一度考えてみようと思ったのはどの意見か。

しっかりと意見を言うことができたか。



(5) 討論型

それぞれに妥当性のある対等な二つ以上の考えについて、児童が選択し話し合う場面でのコミュニケーション

事前に持たせたい視点

友だちの意見を参考にして自分の意見を深めよう。

立場を越えて賛成できる意見、できない意見を見つけよう。

- ・反対の立場の人の考えのよさを見つけよう。 ・最後までしっかりと意見を聞こう。
- ・しっかりと話し合える意見を大切にしよう。

特に意識させたい話し方や言葉

「Aさんの意見は分かるのですが、私は反対です。...」

「私は反対の立場だけど、Aさんの考え方はよいと思いました。...」

「Aさんたちの考えについて、考えを聞かせてもらいたいです。...」

「Aさんの意見に賛成して、付け加えます。...」

「Aさんの考えをもっと知りたいので質問します。...」



事後にふり返らせたい視点

友だちの意見を聞いて自分の考えを広げたり深めたりできたか。

違う立場の人で納得できる意見を言ったのは誰か。

自分の意見に対して、反対の意見を言って考えを深めさせてくれたのは誰か。

反対の意見でも自分の意見を受け止めてくれたのは誰か。

自分の意見のよさを認めてくれたのは誰か。

同じ立場の人で自分の意見を活かしてくれたのは誰か。

分かりやすく説明しようとしてくれたのは誰か。

自分の意見を一生懸命聞いてくれたのは誰か。

(取組を実現するにあたって課題となったこと、及びそれに対して講じた工夫)

「コミュニケーションの八重東型モデル」を基にして授業を行う場合、実際の授業の中での望ましいコミュニケーションの在り方について、授業者が事前に構想(期待する児童の姿など)を持っていなければ、効果的な指導はできない。

そこで、「指導者によるコミュニケーションへの意欲付けおよび留意して取り組ませたい事項」「学習の中で期待する望ましいコミュニケーションの姿」「コミュニケーション活動のまとめ」について、期待する具体的な児童の姿(発言内容)、授業者の発問・まとめの言葉などを盛り込んだ「ともに学び合う喜びを育てるためのコミュニケーション構想」を立て、授業に臨むこととした。

また、自分の考えに自信がなく、発表をためらう児童がいたり、発表の仕方が十分身につけていない児童がいたりしたために、全体で話し合う前にペアトーク(1対1)で話し合うことをさせるようにした。学び合う集団が小さいほど、児童は自分の意見を出したり相手の意見を聞いたりしやすくなる。ペアトーク(1対1)は、コミュニケーションのとり方の基本となるものである。隣の友だち同士で意見を言い合う方法を身につけ、自分の考えをより確かなものにしたり、深めたりすることができるように、次の掲示物を提示し効果的なペア学習ができるように指導をした。

パワーアップのもと①【ペアトーク】

しっかりと話し合って、自分の意見をよりパワーアップしよう。
同じ意見の人と一緒に理由を考えよう。ちがう意見の場合は、少し話し合いをしてみよう。

○おいっせししよう。
○誰だかの意見をしっかりと聞こう！
・やみくもに打つ
・相手を打ちながら

○名前を何度もよぼう

○○さんの意見はよく分かりました。 だけどー
○○さんの意見は、いいところがあります。 だから付け加えます。
○○さんの意見にさんせいです。 参考にしたい人です。
○○さんの意見はとてもいいと思いました。 ですが、ちがう意見です。

ふりかえり

①	うなずいたり、相手を打って聞けた。	
②	しっかりと相手を責めて聞いた。	
③	名前を何度もよんで聞けた。	
④	相手の考えに意見をしっかりと聞けた。	

一部と附夫はどんな話をしながら帰ったのだろう？

ペアトーク

ほんわかペアトークカード

こんな言葉でつながろう！

- ・「なるほど、そうなんだ。」
- ・「～という言葉がいいね。」
- ・「○○さんの意見も確かにいいと思うけど～。」
- ・「○○くんの意見につけ加えて～。」
- ・「もうちょっとくわしく教えてほしいな。」

4. 実践事例の実績、実施による効果

(取組の実績)

授業者が、「コミュニケーションの八重東型モデル」に基づき、コミュニケーションをよりよくとることができるように授業を工夫したことで、児童が友だちと一緒に学ぶことの意義や「ともに学ぶ喜び」を強く感じるようになった。授業中の姿として、友だちの意見をしっかり聞き、前に発言した友だちの考えと自分の考えとを関連（賛成、反論、付け加えなど）させることが多くなった。

取組を通して、互いの考えの違いやよさを認め合い、ともに高まり合おうとする児童の育成ができ、自他を尊重する心情と態度、よりよい児童間の人間関係を育むことにつながった。

【児童の「今の気持ちアンケート」の結果<肯定的評価の割合>】

自己評価項目	H22〔11月〕 (%)	H21〔6月〕比較 (%)
人の話は、だまって聞いている。	95	+10
自分のいいところは、みんなに分かってもらっていると思う。	91	+21
授業中に友だちと助け合ったり、声をかけあったりしている。	91	+12
クラスの人には、自分の考えや気持ちをよく聞いてくれる。	87	+6
学習や話し合いでは、自分の考えを言うようにしている。	83	+5

(取組が効果を上げた実際の事例)

第4学年は、地域の城跡の自然や歴史について調べ、そのすばらしさを広く発信し多くの人に訪れてもらうことをねらいとした総合的な学習の時間の学習を行った。町内の小学生や北広島町を訪れる人たちに「有田城跡のすばらしさ」を知ってもらい、たくさんの人たちに訪れてもらうためには、調べた内容をどのような方法で発信していくことがよいのか話し合う学習として、討論型コミュニケーションモデルの授業を行った。具体的には、パンフレット（紙に書いたもの）・ビデオ・ホームページの三つの情報発信の方法の良さや欠点について話し合った。

【学習のねらい】

情報の発信方法の特徴について考え、町内の小学生や北広島町を訪れる人たちに「城跡のすばらしさ」を知ってもらい、たくさんの人たちに訪れてもらうためには、調べた内容をどのような方法で発信していくことがよいか話し合うことができる。



友だちの考えを、受容的にとらえ、相手の名前を呼んで関わりのある発言をすることができる。[コミュニケーション能力]

お互いの考えや意見のよさに気づき、認め合うことができる。[尊重]

【ともに学ぶ喜びを育てるための指導の手立て】

ワークシートに 最初の段階での自分の考え ペアトークを行い友だちの意見を聞いた後の考え 全体での話し合いを終えての考えの三つの欄を設けた。

学習を進めていくごとに書いていくことで、1時間の中での自分の意見の変容や広がりが視覚的にわかるようにした。

ペアトークや討論で使いたい、「ともに学ぶ喜び」につながる話型や評価をワークシート上に提示し、コミュニケーションをとるための材料をまとめて示すことで、児童が発言する際に生かしやすくした。

討論をする前に、ペアトークを行い、友だちと意見を補完したり、ミニ討論したりすることで、全体に向けて話したいことを児童にしっかりと持たせるようにした。

【「コミュニケーションの八重東型モデル」による指導の成果】

自分の考えを三つの段階に分けて示すことで、自らの意見の変容が分かるとともに、友だちの意見を聞いたり、話したりすることによって自分の意見がより広がったり深まったりしていることに気づくことができた。

ワークシートに八重東型モデルの話型が書かれていることで、児童は、ペアトークや全体での討論の中で、話型を常に意識して利用することができた。そのことで、関わり合いのある発言が多く見られた。

ペアトークを「自分の意見をパワーアップさせる」という視点を確認して行ったことで、意欲的に話し合いをする児童が多かった。また、ペアトーク後に書いた意見では、ほとんどの児童について意見の広がりや深まりが見られた。「友だちとともに学習したからこそ」という価値付けもまとめて行うことができた。

5. 実践事例についての評価

(取組についての評価、及びそう評価する理由)

「コミュニケーションの八重東型モデル」を作成し、よりよい人間関係につながる視点を持たせ、話型などの言語的な面、しぐさや表情などの非言語的な面の両方の指導を行ったことで、児童は友だちと一緒に学ぶ喜びを実感し、友だち間の人間関係がよくなり、生活全体での自他を尊重する心情や態度の育成につながることができた。そのことは、授業中に友だちの意見をしっかりと最後まで聞く姿勢が身についてきたり、児童が自分の考えを安心して発表したり、関わり発言が増えたりしたことから評価することができる。学級集団の傾向を把握するためのアンケートにおいても、学級生活満足群に属する児童の割合が高くなってきている。

(保護者や地域住民からの反応)

保護者・地域の方からは、「学習中に発言する児童が増え、積極的に学習をするようになった」「発言する友だちの方を向いて意見を聞いたり、友だちの意見に関わって発言したりする児童が多くなり、学級全員で学習をしている感じがする」等の声をいただいている。保護者アンケート結果では、児童実態について、「児童はよさを認め合って協力して学習するようになってきている」が87%、「児童は友だちと仲よく学習したり遊んだりしている」が93%、「児童の友だち関係が広がり、よくなってきている」が85%、という肯定的な評価をいただいている。

自他の考えや思いを大切にし、ともに高まりあう学習をつくっていくことが、学校や家庭生活全般における、よりよい人間関係づくりにつながっていると捉えている。

(現在、実施にあたって課題と感じていること)

「コミュニケーションの八重東型モデル」についての分類の妥当性を、視点を明確にして吟味していくとともに、話型やしぐさ等の精選を図ることで指導内容を明確にし、コミュニケーションの特性を生かした人間関係づくりによりいっそう生かせるようにしていきたい。

また、ほとんどの児童に積極的に学習に参加し発言しようとする姿勢が見かけられるようになったが、友だちの意見と関わっての発言が十分できないため、学習の深まりが見られない児童がまだいることが課題である。ねらいの焦点化、学習展開や板書・ワークシートの工夫、個別に自分の考えの持ち方を指導したり発表への意欲付けを行ったりすることで、改善を図っていきたい。

【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

北広島町立八重東小学校

特徴ある授業づくりに重点を置いた人権教育の指導内容・指導方法の改善を目指す事例である。互いの考えのちがいや良さを認め合い、ともに高まり合おうとする子ども、規範意識を持ち、集団の中で他者を尊重しようとする道徳的実践力を持つ子どもの育成を目標として、言語技術を身に付けさせる授業づくり、道徳学習プログラムの実施や特別活動の活性化、交流・体験活動の実践に取り組んでいる。特に人間関係を育むための「ともに学ぶ喜び」を共感できる授業づくりの過程で、コミュニケーション能力の育成を目指す「コミュニケーションの八重東型モデル」を作成・実践し、コミュニケーション意欲の向上、ペアトーク（1対1の対話）の導入による発言への自信育成、「八重東型モデル」の事例を記したワークシートの活用による意欲的な発言の促進などの面で成果をあげている。